

「総合的な探究の時間」における デジタルツールの活用について

勝 眞 一 郎¹

1. はじめに

学習指導要領の改訂により高等学校に新設された科目「総合的な探究の時間」は、これまでの知識を吸収するというタイプの学習内容に加えて、変化の激しい時代において、自ら課題を発見し、仲間と解決するチカラを養うことを目的としている。2022年4月より成人年齢が18歳に引き下げられることもあり、高校時代は地域社会の中の主役として参加する重要な準備期間となる。「総合的な探究の時間」は、地域課題を自分事として捉え、解決の当事者となるための重要な訓練の科目として期待されている。

本稿では、鹿児島県立大島北高等学校（以下、大島北高）の魅力化コーディネーターとして筆者が「総合的な探究の時間」を2年に渡ってサポートしてきた経験から、感染症予防のため地域社会とのコミュニケーションが制限される中で、どのように「総合的な探究の時間」の運営をサポートし、デジタルツールを活用してきたのかについて報告を行う。

2. 「総合的な探究の時間」とは

学習指導要領の改訂により、2022年度から高等学校の「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に変更される¹⁾。新しくなった学習指導要領において「総合的な探究の時間」の目標は、次のように定義された²⁾。

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

¹ サイバー大学 IT 総合学部・教授

- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

3. 大島北高における「総合的な探究の時間」の取り組み

大島北高（写真 1）では、「総合的な探究の時間」を主担当の教員と共に教員全員で担当している。筆者は主担当の教員と授業設計、すなわち全体設計と各回の設計、使用するツールについて打ち合わせを行い、毎回のフィードバックにより手法に修正を加えている。



写真 1 奄美大島の北部にある大島北高

大島北高においては、現時点で「総合的な探究の時間」で取り組むプロジェクトの推進について大きく 6 つのステップで進めている。

(1) 広く地域を知る

農業、観光、地域グループなど地域で活動している方々に来ていただき、全員でお話を伺う。大まかなテーマを決めておき、地元の奄美市役所や魅力化コーディネーターに人選を依頼する。高校の先生方は 3 年から 4 年で異動するので地域のプレーヤーとの連携が難しく、地元詳しい人を頼るのが有効である。

(2) チームを作る

環境、伝統文化、農業、観光などのカテゴリを提示し、生徒から希望を募って 1 チーム 5 人くらいのチームを作る。毎回、このチーム作りに苦労はするものの、先生方と「正解は無い」ということで何とか形にしている。

「総合的な探究の時間」におけるデジタルツールの活用について

(3) プロジェクトテーマを探す

自分たちで選んだカテゴリの中から、少し具体的にテーマを探す。「環境」であれば「海洋ゴミ」なのか「自然保護」なのか「リサイクル」なのか、チーム内のディスカッションを通して選択させる。その際に、ポストイットを使って文字にしておくファシリテーションなどを取り入れる。

(4) 課題を設定する

テーマの中で、具体的に今回自分たちが解決したい、あるいは解決せねばならない課題は何かを決める。同時に、それが解決されたときの姿をイラスト化させる。事前と事後がわかるように、状態を数値で把握するよう指導する。

(5) 情報の収集、整理・分析

ネットでの事前調査（写真 2）と、フィールドに出での事前調査を行う。アンケート調査も事前調査の結果を踏まえ設計して行う。分析から考えたアンケート調査の方法については、補講が必要だと担当の先生と話しているところだが、まだ実現していない。調査は、まさに「問い」なので良い答えを引き出す重要なプロセスである。



写真 2 チームごとにネットで調べる



写真 3 資料づくりもデジタルツールで

パワーポイントや動画編集などのアプリケーションについて、生徒たちは必要に応じて機能を探りながら使いこなしているので、特に使用法説明の時間をとることはしていない（写真 3）。

(6) プロトタイプづくり

解決策としてのしくみや作品をプロトタイプとして実際に作ってみる。これまでに伝統工芸品を制服に取り入れる、地元の食材を使った給食メニューの開発、保育園の仕事を魅力的に伝える動画の制作などを行ってきた。

実際に作ってみて、その評価を受けることが研究を深めるモチベーションになるということがこれまでの取り組みでわかってきた。

(7) 結果のまとめ・発表

1クール終わると必ず、取材に協力いただいた方々や地元メディアなど外部の方々を招いての発表会を行う。従来は、体育館でプロジェクターを投影しながら発表を行っていた。

コロナ禍においては、オンライン会議のしくみを使い、各教室に配信する形で行った(写真4)。各教室と発表者との質疑応答も体育館より活発に行うことができた。最も好評であったのが熱い体育館ではなく、涼しくクーラーの効いた教室で開催できたことであった。また、デジタルアーカイブも可能になったので、ほかの学年で教材としての利用もできるようになった。



写真4 各教室へオンライン会議システムで配信

(8) 次のサイクルへ

2年生で2クール、3年生で1クール行うので、一旦発表が終わると、聞いた方々からの感想を読み、チームで次のテーマの話し合いを行う。

4. デジタル活用により広がる外部連携

デジタル活用により校内での利用に加え、外部との接点の持ち方が豊かになってきている。

一つ目の例は、外部講師との連携である。大島北高が取り組んでいるフィールドワークの手法「聞き書き活動」で協力いただいている重野裕美先生(広島経済大学経済学部非常勤講師)、土屋祐子先生(桃山学院大学国際教養学部准教授)、白田理人先生(広島大学人間社会科学研究科准教授)によるデジタルストーリーテリング作成のためのワークショップをオンラインで行った。こうした機会も来島願って開催する場合は日程調整や費用面ではなかなか難しかったが、デジタルツールのおかげで実現できた。

「総合的な探究の時間」におけるデジタルツールの活用について



写真 5 オンラインによる指導風景

二つ目の例は、長崎県立松浦高等学校との交流である³⁾。オンライン会議を使って、チームの研究報告を互に行い、意見交換を行っている(写真 5)。これは両校のサポートを行っている長崎大学教育学部の井手弘人准教授の尽力で実現している。さらに、井手准教授のゼミナール(井手ゼミ)の学生の方にも各チームへのフィードバック評価をいただいている(写真 6)。



写真 6 長崎大学 井手ゼミからの評価を聴く生徒

デジタルを補完するしくみとして、オフラインの場も作っている。オープンスペースを使って、感染症対策をしながら広い場所でチームごとに研究の途中段階の報告を行い、アドバイスをもらいあう機会を作っている(写真 7、写真 8)。

こうした場を作ることで地元の新聞 2 紙に取材に来ていただけるので、活動に協力いただいた地元の方々へ次に向けた参加意識を醸成することができる。



写真 7 体育館での筆者の講義



写真 8 自発的な探究をサポートする

5. 「総合的な探究の時間」における今後のデジタル活用

大島北高に限らず、多くの高等学校においては、教育のための ICT 基盤がまだ整備できていない。例えば、報告会やインタビューはデジタルデータとして残っているが後々の活用を意識したアーカイブにはなっていない。より学習に効果的、効率的なデジタルツールの活用を整えていくことが望まれる。

今後は、各学校やサポートを行っている団体で「総合的な探究の時間」の指導方法や、デジタルツールの使い方について経験に基づくノウハウを共有し高度化を図っていきたいと考えている。

注および参考文献

- 1) 文部科学省「学習指導要領『生きる力』」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm (2021/12/20 確認)
- 2) 文部科学省「高等学校 学習指導要領 (平成 30 年告示)」 pp. 475-477
https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf (2021/12/20 確認)
- 3) 南海日日新聞「松浦高とリモート交流 研究テーマで意見交換 大島北高校」 2020 年 12 月 10 日付
https://www.nankainn.com/education/%e6%9d%be%e6%b5%a6%e9%ab%98%e3%81%a8%e3%83%aa%e3%83%a2%e3%83%bc%e3%83%88%e4%ba%a4%e6%b5%81%e3%80%80%e7%a0%94%e7%a9%b6%e3%83%86%e3%83%bc%e3%83%9e%e3%81%a7%e6%84%8f%e8%a6%8b%e4%ba%a4%e6%8f%9b%e3%80%80?fbclid=IwAR1NNj1Dj9OqELIHfK8iDlnJqH0loJWdeBrNNpDgBMu4WKkVp5xP_JbNUuM (2021/12/20 確認)